Sustainable Society Design (SSD)

3rd Year High School

2024/04/12 SSD　授業（高校３年生）

それぞれの春休みの気づき

新学期を迎え、SSS から始まった一連の学びも SSD（Sustainable Society Design）へと進み最終年を迎えました。集大成の論文作成に取り組み、全国高校生フォーラムでのポスター発表、またフィールドワークで学ぶ機会もあります。

【本日の講座の流れ】

・春休みにしたこと、気付きの発表
・SSR から引き続き進捗状況の共有
・教員よりアウトプットの機会（フォーラムやコンテスト等）の紹介

【内容】

春休みにそれぞれの体験を通じて改めて気付いた点について発表しあいました。それまでは何気なく訪れていたはずの場所に、まちづくりの学びを通した視点が加わることでこれほどの多くの気付きがあったことに驚かされます。そこから、聞き手の生徒たちもどんどん話しに加わり話題が広がっていました。

例えば

修学旅行で訪れた沖縄の空き家問題、住居の形態

城崎の公園における利用者の多様化への工夫や配慮

沖縄や城崎の街での日本らしさ、地域らしさ

農業への関心

タイでの麻薬の使用合法化に伴う治安の変化

教員からも

銀座や奈良における自転車活用の推進

沖縄での集合住宅の多さと人口密度の関係

サンフランシスコでの車上荒らしの多さと地域によって異なるその注意喚起の個性

他にも、治安の悪化の問題に加えて未成年の飲酒や喫煙の問題、大麻の合法化をどう捉えるか、そしてごみ箱の設置の賛否など、体験談を交え、地域による差について活発な意見が交わされました。またこの時期の日本の街並みについて話が弾んだ際には「日本に桜があって良かった」という意見に全員が共感していました。

各自の研究内容については新たな気付きも多く、参考にした文献や資料はその都度、出所も含めてまめにリストアップし整理しておくというアドバイスを受けました。いつでも引き出しから出せるよう、また論文を書く際のスムーズな脚注リストの制作にも役立ちます。

2024/04/19 SSD　授業（高校３年生）

研究を進めレポートにまとめる

先週は、春休みの訪問先での気付きや経験をシェアし活発な意見交換をした生徒たちです。今日からは、各自の研究テーマについてそれぞれリサーチを進め、まずは５月１０日に予定している途中経過報告での発表に向けた準備をします。

個別作業が続きますが、１週間に１度こうして講座で集まる機会は貴重です。疑問に感じたことを気軽に相談し合う、考えを伝え、情報交換するなど積極的に行っています。

2024/04/26,05/10,05/17 SSD　授業（高校３年生）

それぞれの取り組み－中間報告－

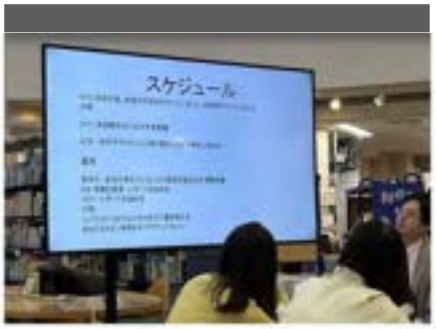
自分の研究テーマについて、各自作業を進めています。個人での作業が多い中、それぞれスケジュールを立て、現在の進捗状況について定期的にミニレポートを作成し、全員で共有することにしています。このような機会は意見交換やお互いにアドバイスし合うといった貴重な時間にもなっています。論文として仕上げ、この最終的な研究報告は２学期の終わりを予定しています。

【それぞれの探求テーマと
→クラスのアドバイス】

① 地元の自然保護に関する政策についての探求
花がとても美しい地元、豊中の自然を守るためにできることを探りたい。
→よい季節にさまざまな場所を実際に訪ねてみる
→市長の公約をチェックして他と対比してみる
→発表は２学期中をめどに

② 奈良の食と自治体の取り組みについての探求
交通の便も悪く奈良観光は今一つ盛り上がらない。また１つのサイトでおすすめのお店を網羅しているものが見当たらなく、新たなサイトの開設にも興味がある。
→ただの観光ガイドで終わらない、地元住民へのリサーチや政策の効果も検証したい
→自分のやりたいことも大切、同時に偏ってしまいがちなこともあるので他の意見も上手く取り入れることを考える

③ 日本また京都府における外国人労働制度についての探求



さまざまな違った立場からの問題点などをまとめて京都府に提案できればと考えている。
→実際の当事者、外国人労働者の方や、サポート団体、行政の担当者の方などに話を聞くことでディテイルが深まる
→違った自治体の受け入れ制度を比較することも必要

④ 主要国の農業の取り組みについての探求
今後重要になる食物自給率などから、日本の農業と外国における政策や取り組みの違いについて比較し日本で有効な策を講じたい。
→日本の国内でも農業への政策について地域差があるので、そこの比較も重要
→農業政策ではオランダが注目されている国の１つだが、どのような点で効果をあげているのか興味がある

⑤ 日本と外国の空き家対策についての探求
地元京都でも深刻化する空き家問題に対して、日本と外国の現状や対策について比較検討して、日本で活かせる対策を提案したい。
→海外の空き家対策について、実際にどのくらい問題視されているのか疑問がある
→京都市民としての意見もまとめるとよい

⑥ 自転車の活用促進についての探求

環境問題や健康促進などの面で全国でも自転車の活用促進が注目されているが、地元西大寺に地域を絞り、さらに効率的な策を提案したい。
→国内外の先進の取り組みは多くありそうなので、効果や問題点をしっかりまとめたい
→すでに検討されている内容ではあるので、有効的であればプランよりもプロポーザルを

各自、取り掛かりの下調べが終わった状況だということがわかりました。今後は今日アドバイスを受けたことを検証し、できるものは実行して、共有したスケジュールに沿って進めていきます。

【全国高校生フォーラムへの参加に向けて】

生徒たちの研究発表のアウトプットの機会の１つとして全国高校生フォーラムへの参加を予定しています。文部科学省が実施しているＷＷＬ及びＳＧＨネットワークに参加する高校生が一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等を英語でポスター発表し、また交流会ではディスカッションを行います。毎年本校より SSD 受講生が参加してきたフォーラムでもあります。

社会課題についての政策提言の公募については、他にも生徒が調べてきた「オーストラリアの水不足を解決する商品の提案」という興味深いものもありました。SSD 受講生の１人はオーストラリアに留学経験があり、水不足の現状について報告してくれました。この問題についても活発な意見が交わされ、生徒たちの社会課題への関心の深さがうかがえました。

2024/06/14-07/05 SSD（高校３年生）

それぞれの取り組み－夏休みを前に－

　研究のテーマについて、講座のメンバーや教員からのアドバイスを受け、対策を講じながら各自でリサーチを続け論文をまとめています。夏休みを前に、今後のスケジュールを整理しこれまでの研究成果を発表する機会をもちました。

●　発表１「豊中市における緑化計画の改善点」

➡概要　私が住む豊中市の景観に配慮した緑を増やす方法について論じる。

➡はじめに　まず感じた街のイメージアップになるような緑地が少ないということから、他地域の事例を検証し豊中市の政策の改善点を探る。

➡先行研究　大阪市、横浜市、岩沼市の緑化計画についてまとめ、豊中市と比較検証する。市民の交流の場を増やし市民中心の緑化計画を広げることが大切だという気付きがあった。

➡おわりに　都会の緑の保全や緑地化計画のみにとどまらず、市民とともに行う街の景観に配慮した取り組みの重要性に気付いたことを結論と結び付けたい。

●　発表２「オーストラリアと奈良の観光政策の比較」

➡概要　奈良県の観光政策の問題点を明確にし、オーストラリアでの観光政策と比較検討して改善点をまとめる。

➡はじめに　奈良県への観光客の訪問率が低いことから、現状の問題点を整理する。

➡先行研究　オーストラリアの各都市の観光政策とその効果について検証し、奈良の現状と比較する。奈良ならではの魅力、快適さを見直し、長期的に選ばれる観光地を目指すための課題を探る。

➡おわりに　宿泊数の圧倒的な少なさや、知名度の低さ、これらを解消するためのヒントとしてオーストラリアでの''Come and say g'day''を参考に、奈良においても滞在型観光で魅力を旅行者自身に発信してもらうといった一石二鳥のプロモーションを提案したい。

●　発表３「なぜ外国人労働者は日本から脱出するのか」

➡概要　外国人労働者の抱える問題点にフォーカスし、2024 年度に新たに導入された制度を検証しながら近年日本で増加傾向にある外国人労働者に対する非道理的な扱いの解決策を講じる。

➡はじめに　日本で働く外国人労働者の抱えるバックグラウンドやその傾向をまとめ、彼らが日本で抱える根本的な問題を整理する。

➡先行研究　日本での働き方の特徴を来日しているベトナム人、日本人学生という違った

視点から分析した先行研究より、技能実習生に関わる制度の問題点を明らかにする。
➡おわりに　労働者の人権を守るというのは、日本人、外国人に関わらず平等であるはず。外国人労働者に対する制度はまだまだ改善の余地があることから、日本で働きたいと思える環境作りができる改善策を提案したい。

● 発表４「日本の農業を活性化させるためには」

➡はじめに　日本の農業の抱える問題、特に農業従事者の減少に焦点を当て、農業の発展のための解決策として「学生による農業アルバイト」について検討したい。
➡先行研究　担い手不足の対策としても注目されるスマート農業の社会実装の取り組みについて調べる。現状を検証し、課題や新たな取り組みをまとめ、国土面積は狭いが農業大国であるオランダとの比較において改善点を検討する。
➡おわりに　スマート農業を農業の未来の発展のための改善策とし広げていくために、それを得意とする若者の職業選択肢の１つに農業が当たり前に入る仕組み作りを提案したい。

● 発表５「空き家への有効な措置とは～対策を比べて～」

➡概要　深刻化する空き家問題の現状を踏まえ、有効な対策をとる重要性を示す。
➡はじめに　2024 年４月に日本では空き家数が過去最多を更新したが、空き家は放置される一方である。現在の制度や空き家対策特別措置法といった対策を調査し検討する。
➡先行研究　日本での中古物件の価値の低さ、高齢化など、空き家の増加と問題の要因についてまとめる。また現在、京都市や鶴岡市で取り組まれている対策、空き家バンクの活用などについてもその効果を検証する。

➡おわりに　あらゆる措置もとられる一方で、肝心の所有者の空き家問題への関心の低さという気付きがあった。空き家に対する課税や、また空き家を優良住宅として普及する体制作りが必要と感じ提案につなげたい。

● 発表６「奈良市自転車促進計画を書く意義と効果的なプロポーザルはどう書くべきか」

➡概要　「まちづくり」を学ぶなか特に自転車に関する政策に関心をもってきた。サステイナブルなまちづくりの面からも多くのメリットがあるにも関わらず奈良市には目立った促進計画はない。自転車普及の促進計画の重要性について述べる。
➡先行研究　日本での課題は、自治体における自転車利用の際の資料（案内やパンフレット）が分り辛く新たな利用者の増加にまで至っていないことに気付く。同じく国土交通省の自転車促進の 12 個の基本方針も、奈良市では認識が浅く実施されていない。実際に自転車で回ってみた結果、市民にもっと周知すべきだと感じることが多くあった。ドイツ、オランダの先行事例を比較検討した結果からも、市民の意識向上を即し、明確な目標をもち改正に取り組む必要がある。
➡おわりに　自転車利用を促進するメリットとしては国土交通省も「二酸化炭素の抑制、災

害時における利便性、健康促進、混雑の緩和」などと社会的効果を示している。このメリットはほぼ各国共通ともいえるため、プロポーザルの目的もこれを基本に考えて講じたい。

● **論文制作のレクチャー**

論文に取り組む生徒たちですが、いくつかの参考書から、教員よりレポートの書き方についてレクチャーを受けました。

【井下千以子著「思考を鍛えるレポート・論文作成法[第３版]（慶應義塾大学出版会）】
取り上げた内容：仮説を立てる/引用して示す/参考文献リストの作り方/論文の章立ての慣習等
最後に文献研究による仮説論証型論文の自己点検評価シートの紹介もあり、その都度チェックすることも大事だと学びました。

【佐渡島沙織他著「大学生のためのレポートの書き方」（ナツメ出版企画）】

取り上げた内容：全体の構成と主張の位置/先行研究を踏まえる方法
先行研究等で参考文献の引用の仕方についても改めて確認しました。

【石井一成著「超図解　レポート・論文術」（日本文芸）】

取り上げた内容：「作文」と「レポート・論文」の違いとは？/「論文」の構成要素を知ろう/論文の骨組みを作る
客観性のある文章を意識して書く方法の１つとして PREP 法といって、まず要点や結論を提示するなど、要点を学び各自論文に活かすようアドバイスを受けました。

いよいよ高校生最後の夏休みでもあります。２学期の終わりには最終の研究発表も予定しています。２学期のはじめには改めて報告会をして研究の進捗具合を共有する予定です。各自、悔いのない有意義な休みを過ごしましょう！

2024/09/06 SSD　授業（高校 3 年生）

夏休みのふりかえり

　夏休み明けの今日の講座は、それぞれの取り組みについて休み期間中に取り組んだことなど進捗状況の報告会でした。また、全国高校生フォーラムに向けたポスター制作の基本を皆で確認しました。

●それぞれの夏休みの取り組みや気付き

奈良の自転車道
平城京内の自転車道を廻ってみたところ、実際は地図上より多くの自転車道があることがわかった。もっと詳細を良い方法で示すことができないかと考えた。

豊中の緑化
夏休みを利用して豊中市を歩き、殺風景な場所がまだまだ多いことに気付く。

オースラリアの観光政策
他の地域の観光政策との比較検討を引き続き取り組んでいる。

空き家対策
長期優良住宅対策を調べるうち、作る側に立つ視点もあった方がよいことに気付く。

外国人労働問題
特に外国人労働者の女性の抱える問題に焦点をあて、課題が多いことに気付く。

●教員の夏休み

松野教諭　～青森、北海道網走を訪ねる～

　青森では、現在の十和田市三本木で幕末に荒れ野原だった土地で川（稲生川）を作り、掘削（幻の穴堰）をし、現在の都市構造につながる開拓をすすめた新渡戸傳とその息子十次郎の物語を知ることになりました。２人は五千円札の肖像にもなっていた国際連盟事務次長を務めた新渡戸稲造の祖父と父にあたる人物です。また、網走では網走刑務所を中心にまちづくりが行われてきた背景などを実際に感じ、まちづくりの１つの例として興味深く滞在

しました。新しい発見など知らなかったことはもちろん、昔に習っていたけれどおぼろげな記憶にしか留まっていなかったことが、実際に現地に行くとしっかりとした知識となることを体験できたことは本当に良かったです。いろいろな場所にいろいろなまちづくりの歴史があります。

実際にその土地や場所に行くことは、やはり机上で得た知識とは違ったインパクトで記憶に残り、さらに新しい発見があるものです。またこの講座での学びから、どのまちを訪れてもその土地のまちづくりについて関心を持つようになったことも事実です。普通の観光にプラスアルファの視点を持つことができたことは楽しいことでもあります。ぜひ皆さんも様々な土地、まちを訪れてみてください。

●ポスター制作にあたって

今後はそれぞれのテーマについてリサーチをすすめ、エビデンスを集め、論文を仕上げていくこと。そして同時にフォーラムへの参加、発表に向けて、ポスター制作のための資料を集めることにも取り組みました。ポスター制作にあたっては、基本的な知識のレクチャーを受けました。さまざまな例も参考に、どのようなものにするか各自決めていました。

教員が用意した書籍も、論文制作、ポスター制作、発表の際の参考にしています。

2024/09/13,27 SSD（高校 3 年生）授業

記号倫理で議論の基礎を身につける

SSD 講座では、各自の論文、全国高校生フォーラムに向けてのポスター制作をすすめています。また、松野教諭より情報科の教員である視点から「記号倫理で議論の基礎を身につける」といった論文の理論性についての講義を受けました。論理性について、新しい視点からの解説を聞き学んでいくと説得力があり、今後の論文制作にとても参考になりました。

●デジタル世界と倫理

論文を書くにあたり、論理性の重要さについて学んできました。そもそも論ずるとは、道筋を立てて、物事を説明するということです。

A 筋道を立てて　B 裏付けを示しながら説明する/意見を述べる

この 2 点が大切です。今日の講座では、それに加えてデジタル世界で役に立っている論理について学びました。ここでは、「記号論理」が使われます。

AND	P ∧ Q	P かつ Q
OR	P ∨ Q	P または Q
NOT	¬ P	P でない
IF	P → Q	P ならば Q

4 つの論理演算（図略）

白黒つける記号論理はコンピュータと相性が良いが、一般的な「論理」では無限や矛盾を扱えても、コンピュータでは扱いません（扱えない)。メリットとしては、内容を文字で置き換えることによって、文章表現に惑わされず、万能ではないが論理的に考えるための有効な方法の 1 つです。

●論理的な推論の種類

論理的な推論とは、大きな「前提」からそれに含まれる確かな「結論」を導く推論で、妥当な推論とは「結論」が正しく「前提」から導き出される論証のことです。前提がすべて真であれば結論も必ず真になることが保障されています。これは前提の認識があいまいだと結論も導き出せないということです。論理の飛躍と隠れた前提においては、必ずしもそうでないことが前提にあると結論が揺らぐことを解説していて、さまざまな練習問題の文章を読みながら前提の重要性を確認しました。思考法を理解することで、結論を出すまでの根拠や材料の集め方がわかります。練習問題は野矢茂樹著『論理トレーニング 101 題』(産業図書)より出題

【推論】演繹法と帰納法
ロジカルシンキングにおける代表的な 2 つの思考法
演繹法：誰もが知っている普遍的事実を前提として結論を導き出す方法
帰納法：個別的事例から普遍的法則を見出そうとする論理的推論の方法

2024/10/11 SSD　授業（高校３年生）

初めてのポスター発表

今日はこれまで進めてきたリサーチをポスター発表という形で進捗報告会を行いました。研究内容を初めて大きな Ａ０サイズのポスターにまとめました。ポスターはそれぞれ個性豊か、工夫が見られ、お互いに比較することで発表の内容と合わせて自己評価、他者評価を通して新たな発見もありました。今後も第２回目のこうした発表に向けて修正を進めていきます。生徒たちの発表の様子、また議題としてあがった主な内容を紹介します。次回の発表は１１月１５日（金）の予定です。

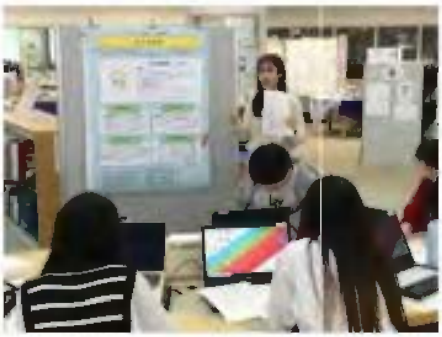
①　Justice for Foreign Technical Intern Trainees 「Who are they？」

外国人労働者の置かれている環境とその現状をまず知ってもらうための発表。問題をはっきりさせ、制度があるのに守られるべきことが守られていないことへの問題提起と新しい制度に対しての自分なりの意見をまとめようと思っています。

②　自転車の利用を促進するまちづくり

自転車利用にもっと注目して、そこから得られる多くのメリットに気付くべきだと考えています。先行事例をより分析して、結果をわかりやすくまとめ、自分なりの自転車利用促進計画を作成し奈良市に提案したいと思っています。

③　空き家対策



これからも確実に空き家は増え続けます。その問題に向き合い、なぜいま対策が必要かを説明したうえで、現在も対策が立てられているものの解決にまでは結びついていない空き家の再利用について新しい提案ができればと思っています。

④ 奈良観光

奈良県は多くの観光名所があるのに、奈良に宿泊し複数日を過ごす旅行者は少ない現状があります。自分のルーツでもあるオーストラリアの観光のマーケティング、プロモーション、ワークショップなどさまざまな対策も検証しながら、奈良独自の魅力を発信し滞在を増やす提案をしたいと思っています。

⑤ 学生による農業アルバイト

農業従事者の減少という深刻な問題に注目し、原因の１つである農業従事者の高齢化と新規就農者の若手が少ないことの解決策を提案します。現在の取り組みを紹介し、それに加えて学生の農業アルバイトの提案と普及を通じて農業が当たり前に将来の就職先の選択肢の１つになればよいと考えています。

⑥ 豊中市に自然を増やしたい！！

既存の緑地化計画はあるが、３割が満足していないという結果を受けて実際に街を歩いてみました。毎日見るもので、殺風景さも当たり前になってしまっていることに気付きました。活動や思いをキャンペーンやクラファンで広め、地域独自の花などの緑地化を進める３つの提案を考えています。

次回は、リサーチをさらに進め、今回のポスター発表についても修正などを活かしてブラッシュアップしていく予定です。

2024/11/15 ,22 SSD　授業（高校３年生）

ポスター発表２回目

　第一回目のポスター発表での評価やアドバイスを経て、第二回目のポスター発表を行いました。見る人惹きつけわかりやすく理解できるようさまざまな工夫を凝らしていました。

【なぜ外国人労働者は日本から脱出するのか】

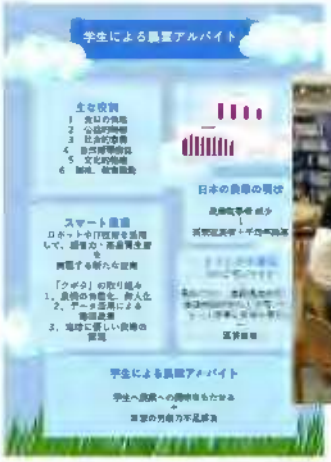
　外国人労働者、特に技能実習生の抱える問題が多く、その中からローンとキャリアアップの２点に的を絞ってその対策と解決を目指した提案をします。

←第１回

↑第２回

【日本の農業を活性化させるためには】

　学生の農業アルバイトを奨励するアイディアのデメリット、メリットをしっかり整理し、提案の具体性を持たせ伝わりやすい内容にしています。



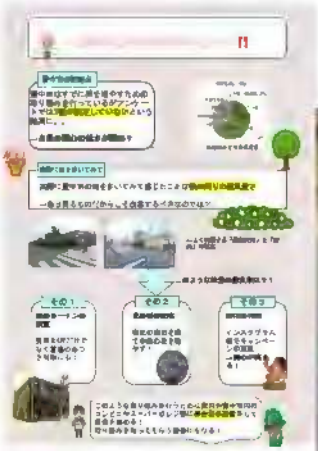
←第１回

第２回→

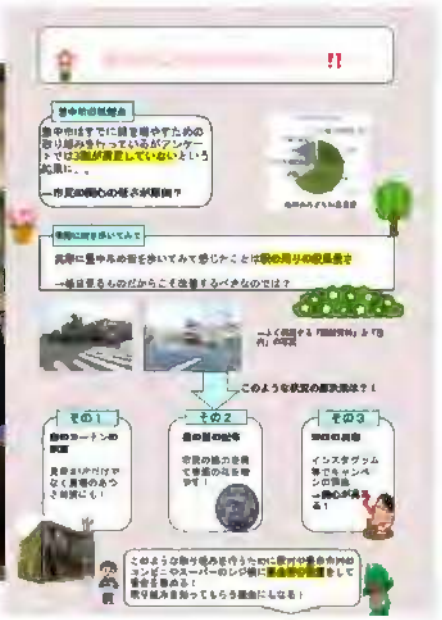
【どのようにして豊中市で自然を増やせるか】

緑地化のアイディアとして具体的な４つを提示し、緑地化を目指す理由の住民との共有と持続可能性を高めるための資金調達の方法を再検討します。

←第１回



第２回→

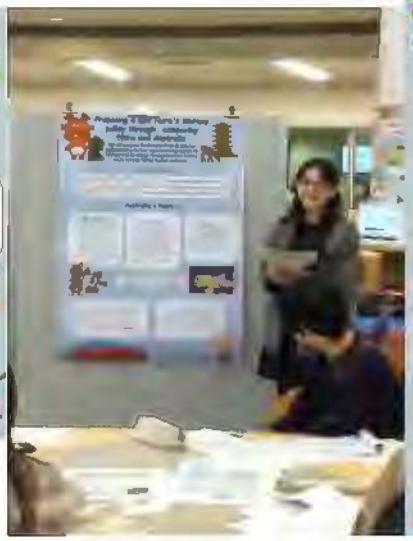


【オーストラリアと奈良の観光政策の比較および奈良県の新たな観光政策の提案】

マーケティングのリサーチを進め、奈良の観光客の推移の見込みなどもグラフでポスター上にも提示し、観光ポスターとは違うアカデミックな観点を強調しようと思います。

第２回→

↑第１回



聴講者の生徒たちによって新たなアドバイスが付箋で付け加えられていきます。冬休みにはこれまでのリサーチの進捗具合を整理し、また仕【空き家対策】計画的にレポートとポスター制作を進めていきます。

【空き家対策】

前回特に聴講者が興味をもった長期優良住宅についてリサーチを充実させました。最終的には他の３つの課題のリサーチも進め、自分オリジナルの課題解決のための提案をしたいと考えています。

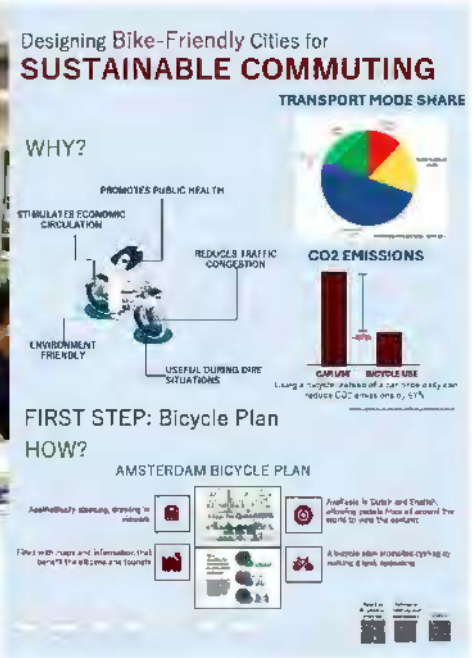
↑第１回

第２回→

【自転車利用を促進するまちづくり】

↑第１回

プランの提案をしても、周知することが重要だと考え、自転車に乗って初めてわかる景色や気付きを SNS で発信することも加えて提案していきたいです。　　↓第２回



右下の QR コードから奈良市自転車促進計画作成プロポーザルにアクセスできるようにしています。

2025/01/10,17,31 SSD　授業（高校 3 年生）

最終発表

３学期はいよいよこれまで取り組んできた提案を仕上げ、最後の発表を行います。SSD 講座でもこの論文やポスター発表の事前学習として論理的にまたルールに基づいた論文の書き方やポスター制作についても学び、意見を交換しながらそれぞれが丁寧に時間をかけてブラッシュアップしてきました。その成果は最後に発表、そしてリサーチブックとして冊子にまとめることで成果報告とします。また冬休みには、講座から 4 名が全国高校生フォーラムにも参加し、そこでは受講生の 1 人のテーマを取り上げてポスター発表や質疑応答、またディスカッションに参加しました。他校生の研究や発表に触れる大変よい機会となり、大いに刺激を受けて帰ってきました。

【最終的な研究のテーマ】
「日本の農業を活性化させるために」
「オーストラリアと奈良の観光政策の比較および奈良県の新たな観光政策の提案」
「なぜ外国人労働者は日本から脱出するのか」
「どのようにして豊中市に自然を増やせるか」
「空き家問題への有効な措置とは」
「奈良市で持続可能な移動手段を促進する」

● 日本の農業を活性化させるために

人口の高齢化はさまざまな場面で大きな社会問題として取り上げられています。農業においても農業従事者の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっています。農業の発展の重要性を理解しその課題の解決を目指した提案です。農業従事者の減少に加えて、一方では日本における農業の経営規模拡大による新たな課題も見つかりました。ただ効率化という観点から農地拡大を進めることは日本の農業には向かないところがあります。こういった課題

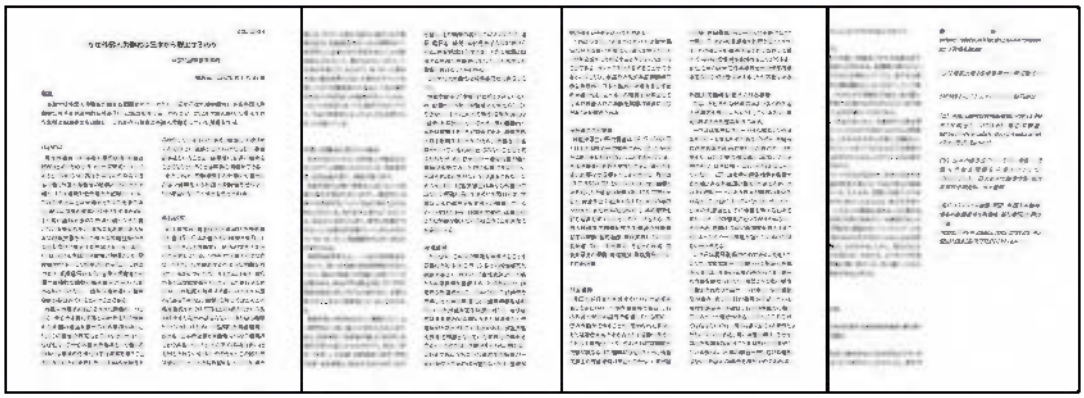
を解決するための現在の「認定農業者制度」も取り上げ、なかなか成果が出ていないことを踏まえてオランダでの農業政策に注目しています。オランダは国土が狭いのにも関わらず、農業大国であるアメリカに次いで世界二位の食料輸出額があります。そこにはデータ管理を徹底し農業の効率化を実現させるスマート農業の採用が関係しています。そこからヒントを得て日本でも有効な取り組みとして提案するのが、学生による農業アルバイトです。学生は若い労働力に加えてデータ管理が苦手な農家の助けになり、社会人になる前に農業体験をすることは農業が将来の職業選択の１つの候補となる可能性を広げます。実際にも自身が小学生のころの農業体験の記憶がこうした課題の選択へとつながっていることもあるかもしれません。農家側、学生側、双方のメリットデメリットを検証し丁寧な解決策を講じ、具体性のある提案となりました。自身も農業アルバイトを体験してみる時間があればよかったと話してくれました。

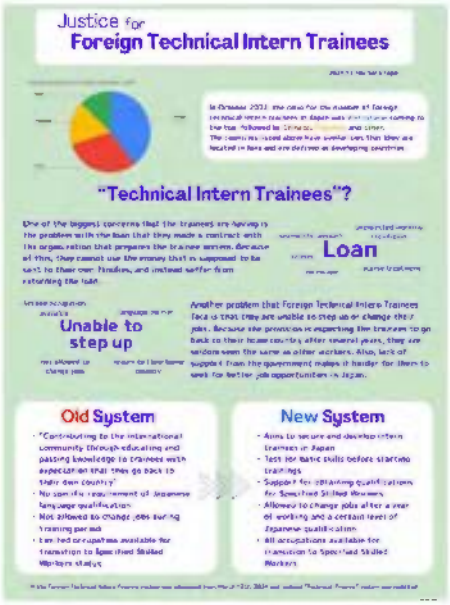
● **オーストラリアと奈良の観光政策の比較および奈良県の新たな観光政策の提案**

奈良県は名所が多く訪れる価値があるにも関わらず、訪ねたとしても日帰りの率が高い傾向にあることを課題と捉え、奈良の観光の普及を目指し宿泊者を増やすための提案です。自身の家族のルーツがオーストラリアにあること、またオーストラリアの観光面で抱える条件や問題が奈良県と似ていた国でもあったことから、その観光政策を比較しつつオーストラリアで成功した事例を奈良県に合うようにアレンジして３つの新たな観光政策を考えました。１つ目は訪日外国人のデータから最も多かった韓国、台湾を中心とした快適な観光プランを用意し PR すること。２つ目は奈良観光の持続可能性を考慮し観光客の快適さと共に奈良県民の快適さとの調和を図るための環境客への注意喚起をしっかり行うこと。３つ目は、観光名所の知名度を上げるための世界遺産への登録やプロモーションの強化です。オー

ストラリアではワーキングホリデーも重要な観光産業だと捉えられています。The Best Jobs in the Worldといったワーキングホリデープランでは、参加者が日々ＳＮＳで発信してくれるため、その土地での体験の素晴らしさ、訪れた場所、そして関わる地元の人々の良さを発信してもらえるといった点でとても効果的なプロモートだと考えます。そして今回のリサーチでも明らかとなった宿泊施設の数が圧倒的に少ないという問題については、宿泊施設への投資を妨げる制度についての見直しを話し合う必要があります。両国の制度と課題を詳細に比較してもうひとつ踏み込めていない点を補強するような可能性を感じる提案となりました。

● なぜ外国人労働者は日本から脱出するのか





日本における外国人労働者の抱える問題をテーマとし、近年増加傾向にある外国人労働者に対する非道理的な対応を課題と捉えその解決を目指した提案です。外国人労働者の多くは、出稼ぎという目的のほかに、技能実習生として技術の習得とその後は帰国して学んだ知識を活かすことが期待されています。そのために既に受け入れのための体制や制度も整理されてきました。ただ現場では、労働者不足というこちらの都合を一方的に押し付け、低所得また悪環境で働かせているといった報告が後を絶ちません。そこから逃れるために身を隠し不法滞在者となってさらに劣悪な扱いを受けることが多発しています。労働者不足という問題はまだまだ拡大傾向であり、グローバル国家とし

て移民を受け入れる方針のもと今後も外国人労働者の受け入れは必須です。その中で昨年の３月に技能実習生制度が廃止され、代わりに「育成就労」という新たな在留資格を創設することが決定されています。国際貢献を目的としていた前制度に対し、新制度では日本国内での人材育成と確保が目的とされています。この制度がどのように効果を出すのかこれからも注視していくことになります。

● **どのようにして豊中市に自然を増やせるか**

まちづくりの学びを通して自分のまちを俯瞰してみるようになると、改めてただ通過する場所ではなく住む場所として、そしてより快適な場所になればよいと考えるようになりました。市民の３割が緑化に満足しておらず、関心も低いといったデータも出ています。そこで他の都市の事例にあるような緑化計画を調べ、比較検討し、豊中市の緑化を目指した３つの提案です。緑化は単に景観面だけではなく、ヒートアイランド現象を防ぐ効果も認められています。また緑化活動に参加することによる地域住民の交流の広がりやコミュニケーションの場所作りといったことも期待できると考えます。まず緑のカーテンを普及させます。そして次に季節ごとに花の種を配布します。そしてSNSの活用により、緑のカーテン活動に参加した、支給された花の苗を植えた、など各家庭や学校等の団体それぞれが発信します。発信者には市内で使えるクーポン券の配布といったキャンペーンも有効的に実施します。緑化計画のための募金活動はＱＲコードからキャッシュレスで決済ができる方法を取り入れるなどまだ検討の余地が残っています。市民を巻き込み一緒にまちづくりをすることはとても重要だと考え、できれば緑化計画の説明や緑化がどのような良い効果を生み、教育現場でもとても大切な学びに繋がるということを市内の小学校にプレゼンテーションしに行きたいと考えています。

● 空き家問題への有効な措置とは

空き家の増加や放置問題は年々大きな社会課題となっています。空き家数は 2024 年 4 月の調査では過去最多となりました。まちの景観のほか、安全面、防犯面の観点からも早急な対策が必要で、土地が活用されないことは地域の活性化にも影響を及ぼしています。京都市の空き家の状況と政策を検証し、借地権の利用の促進を目標とした提案をします。空き家問題を課題と捉えてから、複雑な制度や法律、手続きの煩雑さなど新しく知ることが多くありました。空き家である中古物件が流通しにくい原因となっているのは所有者の高齢化に加えて手続きのわかりにくさがあります。空き家を放置しない、活用または流通させることが所有者の利益につながることを周知するとともに、相談窓口の十分な確保は必須です。また流通を妨げる一つの原因が土地や建物の所有権です。所有権を手放すとなると大きな決断や手続きが伴います。そこで借地権を大いに利用して土地を貸すことがもっと普及すれば、今後放置される空き家が減ると考えました。京都市で 2026 年から新たに導入される「空き家税」の措置にも注目していきたいと思います。

● 奈良市で持続可能な移動手段を促進する

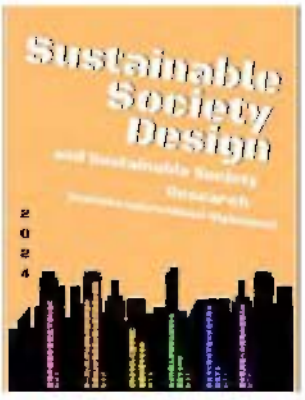
まちづくりを様々な視点から学んできて、自転車を活用したまちづくりに関して興味をもちました。そこで調べていくと、奈良市では自転車利用を促進する計画書がないことがわかりました。自ら計画書を作り、奈良市で自転車利用を促進させ、住民や観光客の交通の利便性を高めることを目的として提案します。既に自転車利用を活用したまちづくりを行っている先行事例からは、環境へのやさしさ、人々の健康増進、移動手段としての便利さ、経済的な循環を促進するといった報告があります。国土交通省の自転車促進の基本方針、またはヨーロッパの自転車を中心とするまちづくりの形成に成功している自転車促進

計画を検証し、取り入れるべき要素をまとめて奈良市の自転車促進計画形成のプロポーザルを作成しました。実際に奈良市を巡り、自転車道路やレンタルサイクルも視察する中で、道路や施設の充実などさまざまな工夫が必要なこともわかりました。例えば安全性の面から自動車と自転車道の分離など奈良市のインフラ計画も自転車を意識したものが必要です。こうした計画をすすめながら、市民に十分に自転車促進が広まるような発表や発信として SNS やテレビ広告などを活用して機会を増やすことも重要だと考えています。

→QR コードを読み取るとプロポーザルをみることができる

【発表を終えて】

全員の最終発表が終わりました。３年間の学びの講座も終わりです。どの発表もテーマに選んだ課題をなんとかしたい、まちを良くしたいという意思が伝わってきました。それぞれの課題が違うため、毎回の発表では知らないことを知る機会となり、それぞれの解決策を一緒に考える時間にもなりました。全員の論文とポスターは一冊のリサーチブックとして、３年間の成果として残りました。



社会課題といったなかなか答えを出すことが難しい課題に取り組み、調べ、論じて、発表するといったここでの経験はこれから大学生、社会人となった後にも必ず生かされるスキルとなります。これからの皆さんの活躍を期待しています！